

2026 年度

(令和 8 年度)

学校評価自己評価表

済美 中学校区

校番

福山市立 津之郷小 学校

最終更新日

2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿 すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 各校の課題を踏まえ、中学校区共通のミッション・ビジョンに基づく取組が推進されている。「主体的・対話的で深く確かな学び」の実現に向け、学び力や成長する力を育む授業づくりが継続され、達成感や充実感を味わえる実践が進められている点は評価できる。また、不登校児童生徒への支援や他者との関わりを重視した取組も行われている。今後は、情報発信の充実を図り、保護者・地域と連携した教育活動を一層推進することが求められる。	児童生徒の現状 ○自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。 ○家庭学習が習慣化していない児童生徒が多く。また、基礎が定着していない児童生徒が多い。 ○相手意識をもった行動が不十分な児童・生徒が多く、人間関係のトラブルも多い。 ○長欠・不登校の児童・生徒数が増加傾向にあり、支援が必要である。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	○課題発見・解決力 ○コミュニケーション力 ○他者とかかわり合う力・心 ①自らの目標に向かって努力し、チャレンジしている。 ②場面や目的に応じた豊かな表現力を身につけている。 ③他者とかかわり合いながら共感の人間関係を築き、共にによりよく生きようとしている。 ○「選択・決定」「対話の充実」「振り返り」をキーワードに授業づくりを進める。 ○「主体的、対話的で深い学び」のある授業づくりの研修 ○児童会・生徒会活動の活性化による規範意識と共感の人間関係の育成
---------	---	---	--	--

III 自 校

学校教育目標
豊かな心を持ち、主体的な実践力のある子どもを育てる
～ すすんで学ぶ子 心豊かな子 たくましい子 ～

現 状
〈児童生徒〉
○既習内容を生かして、新たな課題に取り組もうとする面に課題が見られる。考えの足場となる基礎学力の定着、学習の見通しをもたせる工夫が必要である。
○課題を解決するための学習形態や方法の経験が少ない。発達段階に応じた、様々な学習形態・方法を経験する必要がある。
○他者との対話やかかわりを通して自分の意見を深めたり、自信を深めたりする経験を積む必要がある。

〈授業〉
○「明確なゴールの設定」、「学習方法の選択・決定場面の設定」、「必然性のある対話」、「学びの振り返り」の視点に立った授業づくりを進める。
「明確なゴールの設定」：単元終了時に目指す姿の具体的なイメージの共有・パフォーマンス課題の提示
「学習方法の選択・決定場面の設定」：様々な学習形態の段階的な体験
「必然性のある対話」：意見交流を導く課題、対話を豊かにするキーワードの提示
「学びの振り返り」：学習を生かして最後までやり切った思いをもたせる授業展開

育成する力 資質・能力		○課題発見・解決力 (問いを持つ ふり返る 見通す)		○コミュニケーション力 (聴く 伝える まとめる)		○他者とかかわり合う力・ 心(思いやり 社会性 貢献)	
めざす 子ども像	小学校	1・2年	「なぜ・どうして」「もっとこうしたい」という思いや考えをもち、言葉にすることができる。	周りの人の考えを(目線を合わせてうなづくなど反応しながら)最後まで聴くことができる。	周りの人の思いに耳を傾け、寄り添ったり励ましたりすることができる。		
		3・4年	「なぜ・どうして・どうすれば」「こうすれば・こうしよう」と言葉にして行動することができる。	周りの人の考えを、自分の考えと比べたり関係づけたりし、整理して伝えることができる。	相手の立場や思いを自分に置き換えて想像し、異なる考えや意見を大切にすることができる。		
		5・6年	気づいたこと・考えたことなどを振り返り、次の(新たな)目標や課題を見出し、次へつなげることができる。	自分の考えを、他者に分かりやすく(例え話の挿入・図表や絵・写真・ホワイトボードの活用、話し方の工夫など)伝え、理解、納得を得ることができる。	多様な人たちと接する中で、自分と異なる意見や立場を尊重し、広い心で受け止め、適切に対処することができる。		
	中学校	1年					
		2年	気づいたこと・考えたことやその意味・価値・つながりを振り返り、見出した新たな目標や課題を、見通しを立て情報を収集・整理・活用しながら解決・達成することができる。	自分の考えを他者に分かりやすく伝えながら、質問・説得・納得等を繰り返し、考えを広げ深めるとともに、まとめたり(合意形成)、新たな発想を生み出したりすることができる。	集団(地域、学校・学年・学級等)活動における自らの役割とその目的・価値を見出し、他者によりよいかかわりながら、責任を果たしたり、貢献したりすることができる。		
		3年					
研究		テーマ	自ら「かかわる」子どもの育成 ～学びに、自分自身に、他者に～				
		内容等	国語科、特別の教科 道徳を中心に、学習場面での様々な「かかわり」を基盤に、「名核なゴールの設定」、「学習方法の選択・決定場面の設定」、「必然性のある対話」、「学びの振り返り」の取組を通して、主体的な学びを創造する。				
めざす授業の姿		○教科の本質に迫る知識を形成している。＜学びとの「かかわり」＞ ○学びのゴールを明確にし、学習方法や内容を選択・決定している。＜自分自身との「かかわり」＞ ○学習したことを生かして最後までやり切る達成感を感じている。＜自分自身との「かかわり」＞ ○他者との対話を通して、学びを深めている。＜他者との「かかわり」＞					

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立津之郷小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							口指標に係る取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	口指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	【基礎学力】 データ活用による 学力の定着と向上	★	新規	・主体的に学習に 取り組む授業づく り及び基礎学力の 定着に向けた取組 を行い、学力の向 上を図る。	・「明確なゴールの設定」 「学習方法の選択・決定」 「必然性のある対話」「学び の振り返り」の視点で授業づ くりを推進する。 ・学力調査結果を踏まえた基 礎学力向上の取組を進める。	・「見通しをもって学習してい る」「振り返りを次の学習に生か している」と回答する児童80％ 以上。 ・「意見交流を導く課題設定、対 話を豊かにするキーワード提示に つながる工夫をしている」と回答 する教職員：85％以上 ・各種学力調査及び国語・算数の 単元末テスト正答率40％未満の 児童16％以下。									
1	【多様な学び】 個々の特性に応じ た教育内容の充実		新規	・児童一人ひとりの 実態に合わせた 指導・支援を通し て、自分の良さに 気づき、共により よく生きようとす る児童を育てる。	・道徳を中心に、意見交流や 振り返りから自分の良さに気 づかせる。 ・特別支援教育の視点に立つ た指導・支援を充実させる。 （特別支援教育研修の推進） ・児童会活動（縦割り班活 動）を充実させる。	・「自分には良いところがある」 と回答する児童80％以上。 ・「特別支援教育の視点に立つて 児童と接している」と回答する教 職員80％以上。 ・「班のメンバーと協力して活動 できた」「自分の役割を果たせ た」と回答する児童90％以上。									
1	【心身の健康】 心のケアと生活リ ズムの確立による 健康の保持増進	★	新規	・児童の心の状態 の把握及び望まし い生活リズムを確 立させる取組を行 い、心身の健康の 保持増進を図る。	・心の健康観察「ここタ ン」を実施し、児童の心 の状態を把握する。 ・運動の特性に触れる体 育科の授業づくりを進め る。 ・「健康ウィーク」の取 組を充実させる。	・「学校は楽しい」と回答す る児童90％以上。 ・「体育の授業は楽しい」と 回答する児童85％以上。 ・「健康ウィークの目標を達 成できた」と回答する児童7 5％以上。									
1	【環境整備】 教職員が生き生 きと働ける組織 づくり		新規	・教職員の健康及 び福祉の確保に関 する取組を進め、 教職員のやりがい と保護者の学校信 頼を高める。	・定時退校日は会議・委 員会を設定せず、校務等 に取り組む時間を確保す る。 ・学校だより等で児童の 様子を保護者・地域に発 信する。	・時間外勤務時間月45時間 以内の教職員90％以上。 ・「仕事にやりがいを感じて いる」と回答する教職員 90％以上。 ・学校だよりによる発信月2 回以上。 ・「我が子は成長している」 と回答する保護者90％以 上。									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。